

令和4年度 東京都立永福学園学校経営報告

東京都立永福学園

統括校長 緒方 直彦

I 今年度の経営における重点テーマ

「ひとつの学校 ～One school! One team!～」

肢体不自由教育部門と高等部就業技術科が併置されている特別支援学校の利点を生かし、各部門等が緊密に連携することにより、教職員の専門性の向上を図り、都立永福学園全体の教育活動を充実させる。さらに、全教職員の業務の平準化や効率化等を図ることで、働き方改革を強力に推進する。

II 今年度の具体的方策・取組目標及び結果

【評価基準】学校評価等の結果を踏まえて各項目を以下の基準で評価した。

A：目標値等100%以上達成

B：目標値等の85%以上達成

C：目標値等の70%～85%

D：未実施、目標値等の70%未満

1 学習指導(自立活動を含む)

NO	部門	具体的な方策・取組目標 (成果指標)		評価
1	共通	方策	個別指導計画等に基づいた個に応じた適切な指導の実施	A
		目標	学校評価での保護者の学習指導に関する肯定的評価80%以上	
		結果	学習指導に関する肯定的評価 肢体：98% 就技：97%	
2	共通	方策	GIGAスクール、スマートスクールによるICT機器を活用した指導の実施	D
		目標	学校評価での、ICT機器を活用した指導に関する肯定的評価80%以上	
		結果	ICT機器活用に関する肯定的評価 肢体：51% 就技：65%	
3	肢体	方策	自立活動の目標及び具体的指導内容の適切な設定と保護者説明の実施	A
		目標	学校評価での保護者の自立活動に関する肯定的評価80%以上	
		結果	自立活動に関する肯定的評価 肢体：94%	
4	就技	方策	各教科等の指導におけるSDGsに関する指導の充実	B
		目標	生徒の授業評価におけるSDGsに関連する指導の肯定的評価80%以上 例：各教科等でSDGsに関することを学ぶことができ、興味が広がった。	
		結果	SDGsに関する肯定的評価 就技：77% (肢体：75%)	
5	就技	方策	習得・活用・探究の段階を踏まえた教科指導等における学習の工夫	A
		目標	学校評価での生徒の教科指導に関する肯定的評価80%以上 ※例：～ができるようになった、もっと他のことについても学びたくなった。	
		結果	分かりやすい教科指導に関する肯定的評価 就技：92%	
6	就技	方策	職業に関する専門教科での確実な知識・技能等の習得及び職業及び社会人・職業人としての意識の向上	A
		目標	生徒授業評価における専門教科に関する肯定的評価80%以上	
		結果	職業に関する専門教科に関する肯定的評価 就技：95%	

2 進路指導

NO	部門	具体的な方策・取組目標 (成果指標)		評価
1	共通	方策	進路学習、現場実習、進路相談を通じた全生徒の進路希望の実現	B
		目標	高等部第3学年生徒の進路希望の実現度100%	
		結果	進路希望実現 肢体：100% 就技：企業就労希望実現率96%	

2	共通	方策	保護者に対する進路指導に関する学習会等の実施による情報提供の充実	A
		目標	学校評価での、進路指導の情報提供に関する保護者の肯定的評価80%以上	
		結果	進路指導の情報提供に関する肯定的評価 肢体：84% 就技：87%	
3	共通	方策	教育活動全体（全ての教科等における）でのキャリア教育の推進	A
		目標	保護者の学校評価でのキャリア教育に関する肯定的評価80%以上	
		結果	キャリア教育に関する肯定的評価 肢体：79% 就技：87%	
4	共通	方策	移行支援計画に基づく卒業生の追指導の実施	A
		目標	卒業後1年目全進路先訪問、保護者等の求めに応じた支援会議の実施100%	
		結果	卒業後1年目進路先訪問支援・支援会議等100%実施 支援会議開催回数128回	
5	就技	方策	生徒の希望する職種等での現場実習等の実施	B
		目標	希望達成率100%	
		結果	現場実習等に関する希望達成率 1年：99% 2年：99% 3年：98%	
6	就技	方策	進路学習及び現場実習を踏まえた（個別の）進路相談の計画的な実施	A
		目標	一人2回以上/年実施	
		結果	進路相談の計画実施 一人2回/年実施（全生徒実施）	

3 生活指導

NO	部門	具体的な方策・取組目標（成果指標）		評価
1	共通	方策	アンケート等によるいじめの早期発見・対応の徹底と計画的な教員研修の実施	D
		目標	教員研修3回以上/年実施、いじめ発件数0件/年	
		結果	研修会3回実施、アンケート等によりいじめ複数件確認（極軽微ないじめ）	
2	共通	方策	高等部全HRでの「SOSの出し方に関する指導」の実施	A
		目標	2回/年高等部全HRで実施。生命にかかわる重大事故0件/年	
		結果	「SOSの出し方に関する指導」の工夫に関する教員の肯定的評価 肢体：64% 就技：82%、HR指導2回/年実施、重大事故発件数：0件	
3	共通	方策	コロナウイルス感染予防対策等を踏まえた避難訓練等の計画的な実施	A
		目標	避難訓練11回以上/年実施（合同避難訓練4回/年実施）	
		結果	避難訓練11回実施（合同避難訓練4回実施）	
4	共通	方策	「SNS東京ルール」を踏まえた適切な活用のための指導の実施	B
		目標	SNSに関する事故及びトラブル0件/年、高等部全HRで1回/月指導	
		結果	毎月全HRで指導実施、SNSに関するトラブル1件/年	
5	共通	方策	挨拶の励行と人権に配慮した呼称、言葉遣いの徹底及び教職員研修の実施	B
		目標	教職員研修及び自己診断等の実施（3回/年）	
		結果	「教職員倫理規定」を順守した職務に関する教員の肯定的評価 肢体：98% 就技：97%	
6	就技	方策	表彰制度を活用して生徒の学びの意欲や活動意欲の向上や規範意識の醸成を促進	A
		目標	30人程度/年表彰（各学年10人程度）	
		結果	延表彰者人数 110人（各種検定等を含）	

4 特別活動・その他

NO	部門	具体的な方策・取組目標（成果指標）		評価
1	共通	方策	学校行事（校外学習等）を各学習活動と関連させ計画的に実施	A
		目標	生徒・保護者による学校評価での学校行事に関する肯定的評価80%以上	
		結果	学習の成果が生かされた学校行事の実施に関する肯定的評価 肢体：84% 就技：86%	

2	共通	方策	社会貢献活動の計画的な実施によるボランティアマインドの醸成	A
		目標	両部門で、5回以上/年実施、地域等からの肯定的評価80%以上	
		結果	社会貢献活動の実施 両部門で19回実施	
3	共通	方策	文化・芸術等を通じた両部門間の校内交流の促進	D
		目標	HPやTEAMSを活用したデジタル美術展の開催2回/年	
		結果	デジタル美術展等については未実施	
4	共通	方策	図書コーナーを有効活用した読書活動の推進	B
		目標	年間貸出件数 500冊以上 保護者の学校評価における図書の整備等に関する肯定的な評価80%以上	
		結果	年間貸出件数526冊(3/24現在) 読書活動・図書館の有効活用に関する保護者の肯定的評価 肢体:54% 就技:92%	
5	就技	方策	各種委員会及び部活動に全生徒が参加による自発的・自主的活動の推進	A
		目標	生徒の学校生活(部活動等)に関する肯定的評価80%以上	
		結果	部活動等に関する生徒の肯定的評価 89%	
6	就技	方策	キャリアガイダンスの時間の指導を要とした道徳教育の実施	A
		目標	生徒授業評価等による自己肯定感・規範意識に関する肯定的評価80%以上	
		結果	キャリアガイダンスの授業が生活に役立っていることに関する生徒の肯定的評価83%	

5 安全・安心、健康づくり

NO	部門	具体的な方策・取組目標(成果指標)		評価
1	共通	方策	コロナ感染予防の徹底及び感染状況等に関する適切な情報提供の実施	A
		目標	学校評価での感染予防に関する肯定的評価80%以上	
		結果	感染予防等に関する保護者の肯定的評価 肢体:95% 就技:99%	
2	共通	方策	安全点検日を設けるなどして施設・設備等に関する安全管理の徹底	A
		目標	施設・設備の瑕疵等による学校事故0件	
		結果	施設・設備の瑕疵等による学校事故0件	
3	共通	方策	家庭等と連携し基本的な生活習慣の確立及び健康の三原則(栄養・運動・休養)に関する情報を提供することなどにより児童・生徒の体力向上等を促進	A
		目標	保健便り・生活指導等の便り等の1回程度/月発行	
		結果	保健便り、給食便り等を1回/月発行	
4	共通	方策	養護教諭、看護師等による健康観察及び医療的ケアの適切な実施	A
		目標	食物アレルギー及び医療的ケアに関する学校事故0件	
		結果	食物アレルギー及び医療的ケアに関する学校事故件数:0件	
5	肢体	方策	スクールバス、医療的ケア専用車両の安全かつ円滑な運行	A
		目標	スクールバス関係での事故件数0件 保護者の負担軽減に関する肯定的評価80%以上	
		結果	スクールバス関係での事故件数:0件 保護者の負担軽減に関する肯定的評価 83%	
6	就技	方策	生徒の心身の健康管理、事故及び体罰防止を徹底した部活動等の実施	A
		目標	生徒の学校評価等における部活動に関する満足度80%以上 部活動における指導等に関する研修 2回/年実施	
		結果	部活動に関する生徒の肯定的評価 89% 部活動指導に関する研修2回実施	

6 広報、地域交流、地域支援等

NO	部門	具体的な方策・取組目標（成果指標）		評価
1	共通	方策	ホームページを有効活用した情報発信	B
		目標	ホームページ更新回数 450 回/年以上、HP に関する肯定的評価 80%以上	
		結果	ホームページ更新回数 473 回 HP による情報発信に関する保護者の肯定的評価 肢体：72% 就技：89%	
2	肢体	方策	学校間交流等の促進	B
		目標	令和 5 年度学校間交流実施に向けた交流校を 2 校（小・中：各 1 校）指定	
		結果	大塚ろう学校永福分教室、新宿養護学校との交流実施、小・中学校は未定	
3	肢体	方策	副籍制度による交流及び共同学習等の実施	B
		目標	交流及び共同学習の希望者全員実施（100%）	
		結果	副籍交流の実施者数：27 名（小学部 93%、中学部 50%、全体 88%）	
4	就技	方策	高等学校の発達障害教育等に関する支援の強化	A
		目標	情報交換会 各校 2 回/年実施	
		結果	担当する全高等学校を対象とした情報交換会 2 回/年実施 支援件数：23 件	
5	就技	方策	関係教育委員会及び特別支援学校等と連携した募集活動の実施	B
		目標	応募倍率：1.2 倍以上	
		結果	応募倍率：約 1.1 倍	
6	就技	方策	生徒の出身校訪問及び入学者選考に関する特別支援学級の保護者等への情報提供（個別相談・説明会等）の実施	A
		目標	50 校/年訪問、入学者選考の情報提供（個別相談等）500 件以上/年	
		結果	学科説明会等参加者 950 人 ※情報提供 500 件以上達成	

7 学校運営・組織体制

NO	部門	具体的な方策・取組目標（成果指標）		評価
1	共通	方策	センター契約による効率的な予算の執行	D
		目標	一般需用費のセンター契約率 70%以上	
		結果	一般需用費のセンター契約率 40%	
2	共通	方策	電子決済等によるペーパーレスの促進	A
		目標	電子決済率 80%以上	
		結果	電子決済率 94%（1/15 現在）	
3	共通	方策	定時退庁日、学校閉庁日の設定等による超過勤務時間の削減	B
		目標	全教職員の年間での平均超過勤務時間 2.5 時間以下/月	
		結果	平均超過勤務時間 28.8/月（9 月～12 月）	
4	共通	方策	教職員の心身の健康の保持・促進	B
		目標	健康診断受診率 100%及び要医療者の確実な医療機関の受診	
		結果	健康診断受診率 91%	
5	共通	方策	全教職員の服務規範意識の向上	A
		目標	服務事故防止研修 3 回以上/年実施、服務事故 0 件	
		結果	服務事故防止研修 3 回実施 服務事故発生件数：0 件	
6	共通	方策	クリーンデスクと適切な個人情報管理の徹底の為の環境整備日の設定	A
		目標	クリーンデスクチェック 1 回/週、環境整備日 1 回/月 個人情報紛失等の事故 0 件	
		結果	クリーンデスクに関する教員の肯定的評価 肢体：88% 就技：85% 個人情報紛失事故件数：0 件	

Ⅲ 令和5年度の方針

1 安全・安心、健康づくりに関する取組みの徹底

安全・安心、健康づくりに関しては、全ての項目が目標達成できた。

また、施設・設備の瑕疵に伴う学校事故は0件であった。

しかし、介助方法（支援方法）の人為的ミスにより肢体不自由のある生徒を転落させる等の重大事故が発生した。児童・生徒が、安全に安心して学校生活を送れるよう、施設設備の瑕疵及び環境整備だけでなく、基本的な指導・介助技術の確実な向上を図るために教職員研修等を充実させる。

2 ICT機器の活用促進と授業改善

ICT活用に関して、保護者・教員共に他の項目と比較して肯定的評価が極めて低い結果となった。

本年度、ICT機器を活用する環境整備に努めたが、今後は、教員のスキルアップと意識改革を図り、授業等での積極的な活用を促進させ、個別最適化の学びと協働的な学びを促進させる。

3 人権を意識した教育活動のさらなる充実

昨年度までいじめの発生件数は0件であったが、今年度は、極軽微ないじめを複数件発見した。

このことは、いじめアンケートの内容や分析方法の改善を図ったことで、極軽微ないじめに対しても、教職員が敏感になってきたと判断する。引き続き、全教職員によるいじめの早期発見・対応及び家庭や専門家と連携した指導の充実を図る。

4 働き方改革の一層の推進

ライフワークバランスに関する意識では、学校評価において両部門の教員の否定的な回答率が、約40%であった。

引き続き、肢体不自由教育部門と高等部就業技術科の両部門の連携を図り、主幹教諭等が中心となり業務を進めることのできるライン組織の強化を図るとともに、全教職員の職務の平準化や効率化を促進し、「働き方改革」を一層充実させる。

5 特色化・魅力化を図る取組の推進とPR活動の充実

本年度は、読書活動・図書館整備や校内交流（肢体不自由教育部門、就業技術科、大塚ろう学校永福分教室）等、特色ある教育につながる取組を進めることができた。

来年度も引き続き、文化芸術活動等を促進し、校内交流の一層の充実を図っていく。

さらに、研究機関と連携し、新たな社会貢献活動や学校間連携等の充実も併せて行っていく。

就業技術科においては、専門教科と普通教科の双方の充実を図り、新たな取組を専門教科で進めるなど教育の充実を魅力化し、広く都民に発信していく。